

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ぶどうの家

日付 平成 20年 9月 30日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

既存の民家を活用し、デイサービスとグループホーム1ユニットの併設で平成17年に新しいスタートしたが、平成18年3月指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準が制定され、同年7月にデイサービスが小規模多機能ホームとして再スタートした。この基準により、グループホームは定員5名であり、小規模多機能ホームへの併設型となり、利用者の定員の基準を満たす限り、職員の配置を始めとして同じ事業所として運営できるようになり、利用者の日常昼間の状況は小規模多機能ホームとグループホームでは区別のつかない生活をしている。夕食時になると、通いの利用者が居なくなるので、グループホームの利用者と小規模多機能ホームの泊まりの

利用者が外から来た者にやっと判別がつく。2種類のホームがあるが、地域密着型サービス事業とはこういうものかと思える。

このホームは、平成8年に宅老所として出発し、介護保険制度が発足する前から地域の高齢者を支援してきた代表者が、ずっと利用者本位のケアを続けて高齢者の生活を支えてきた経緯があるので、デイサービスや小規模多機能ホーム、グループホームという事業形態は充実してきているが、地域の利用者や家族に対する“思い”や“利用者への対応する気持”は、設立当初から何ら変わる所はない。職員は家族の気持ちで接しているが、介護のプロとしての自覚は持っており、このホームは家庭以上の認知症に対する専門家集団である。

「ホームの空間は、民家を使っており、最小限の改修を加えるのみとなっているので、昔の家そのもので、居室や居間を見ても二つと同じものはない。グループホームの居室も床の間付きの部屋もあれば、続き部屋みたいな所もある。普通に建てたグループホームのように部屋が整然と並んでいる姿は全くない。それが大きな家に住んでいる馴染みの気持ちになれるのだろうか。

食事を調理する職員は、専任的な人が交替しているが、食事の手伝いをしたり、落ち着いた自分の居場所をしっかりと持っている人は、グループホームの住人であると感じた。ここが自分の住まいなんだと決まっている毎日の生活がこの落ち着きなのかなあと思う。

グループホームの住人に「前からあなたのことよく知っていますよ。お元気そうですね」「いや～、もうそろそろお迎えが来てもいいんやけどねえ」と言う。前からすると大分身体の動きも衰えたかなあと思えるが、「いやいや、まだお若いですよ。顔もすべすべしていますよ」「そうか、もう年ですわ」「まだ、お迎えは向こうからお断りと言ってますよ」「そうか、まだいけんか」「よう食べて、元気で暮らしましょうね」と話していたが、いつまでも元気で暮らしてもらいたいものですね。

特に改善の余地があると思われる点

昼間の利用者3人に対し1人の配置基準は、小規模多機能ホームの通いの配置基準と同じで、全体として同じように配置されるが、大人数の中での生活とグループホームだけの生活の様子から見ると何か散漫な感じがしていることが気になった。グループホームでの生活者はじっくりと落ち着いた生活が必要かとも思ったが。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：運営理念は定められており、職員にもミーティング等で話し合い理解されている。毎年、利用者全員で目標を定めて職員と共に実行するようにしている。</p> <p>2、全体的に見て…：事業の目的として「認知症による物忘れのために日常生活や対人関係がうまくいけなくなり、「自宅での生活が困難になった場合に家庭的な雰囲気の中で共同生活を送ることによって機能低下を遅らせたり、精神的に落ち着いた毎日を過ごすことができるようサポートする」とある。「家庭的な雰囲気の中で生活」が利用者の落ち着きを与えるのではなく、家族には出来ない「介護のプロが行うケア」があってこそ、利用者は安心、満足、信頼の気持ちを保つことが出来る現実を見ることができた。</p> | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：ホームの代表者は、平成8年から宅老所を始めて以来民家を活用して高齢者のケアをしていることは一つの信念であり、その考え方はずっと続いている。そして、古い民家の改修も最小限に止めて、利用者との生活を大切にしている。ホームの拡充と共に、現在のホームは3回目の引っ越しを繰り返してきた。今年の利用者の目標の一つに「大きな西瓜を育てて食べよう」ということであるが、ホームの庭にスイカ畑があり、大きなスイカの果実が育っていた。特に改善の必要もない。</p> <p>2、全体的に見て…：古い民家の部屋の配置になっており、大きい部屋もあれば、小さな部屋もある。すぐに部屋に入れる場所もあれば、続きの間になっている配置もある。“たまには自分の部屋も間違ってもあるわな”と大らかな生活である。</p> | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人のできることに配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：小規模多機能ホームに併設されているグループホームであり、定員5名のグループホームを単独に見ることは不可能で、2つのホームの大世帯の生活として見なければならぬ。訪問調査の日は利用者14名という日中は大人数の日で、ホームの中は一杯の利用者と職員で大賑わいだった。このホームの特長でもあるが、利用者と職員の間柄は濃厚な関係にあり、家族以上の親密な人間同士の付き合いが出来ている。そして好きな者同士、あちらこちらで好きなように過ごしているが、歌を歌い出したら、あちこちから合唱となるとという雰囲気である。夕方になり、通いの利用者が帰ると、ほっとするホームに戻った。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームに入所して、皆と生活する事から安心感を持ち、よく食べ、よく寝ることにより人間性を回復し、自宅に帰った利用者もいた。</p> | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 災害対策 | | |
| 33 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 34 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 35 | 運営推進会議を活かした取組 | | |
| 36 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 37 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：家族同士が気楽に交流できるような雰囲気を作りたい。そして、運営推進会議を活用して、地域のボランティアの人との付き合いや地域の行事に参加していけるようにもっと積極的な働きかけをしたいと考えている。運営推進会議を有効に活用すると相乗効果も大きいので、改善していただいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：グループホームと小規模多機能ホームが一体化したような組織となり、職員も総数19名の大世帯となった。当然管理者も両ホームの兼務となったので、管理者は大変そうである。代表者も計画作成担当者として両ホームを兼務しているので、代表者とのコンビでやっていけるし、職員も気さくな人ばかりなのでチームワークは取れているが、夜勤専属の人や調理専門の人など専門化している所もあり、職員間のコミュニケーションや意思疎通に気遣いしなければならない。気持ちの逃げるところがないと苦勞しているようだが、これからのマネージメントに期待しておきたい。</p> | | |